

徳法寺

令和六年能登半島地震

杉谷 伊吹

今回の震災で被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。また、亡くなられた方々には哀悼の意を表します。合掌。

この文章を書いているのは地震から一週間ほど後ですが、日が経つにつれて次第に被害の全容が明らかになってきております。今回の震災は通信や道路がいたる地域で寸断されたため、現状がなかなか把握できませんでした。激しい揺れに襲われた元旦は、ヘリコプターからの上空中継と、報道関係者がいた地域、さらには電波が利用できた一部被災地域の人が撮影したわずかな映像しか判断材料がなく、災害の全体像は分かりませんでした。二日目になっても、まだ断片的な情報しか伝わってきませんでした。三日目・四日目になつてようやく各地に報道機関が入ることができたことで、ある程度の状況が分かるようになりました。死者数や安否不明者の数が日毎に増えていくのを見て、ようやく、ああやはりこれは大災害だった

のだなど、身に染みて感じられるようになりました。あつて当たり前のように思っていた整備された交通網や、通信・電気・水道などのライフラインが破壊されてしまうことが、どれほどの苦悩と混乱をもたらすものなのか、想像するだけでも恐ろしいものがあります。今回は、一部通信が回復した後に流された、悪質な偽情報について書こうと思います。

東日本大震災や熊本・大分地震の時にも、被災地に関するデマがSNSやインターネット上で飛び交い、それに対する注意喚起が政府広報や地上波ニュースでされていきました。中には、井戸に毒が入れたらというものや、動物園からライオンが逃げ出したというような、犯罪ともいえるような悪質なものでありました。平時であれば誰も信じないようなこのようなデマも、非常時では平常心を失った一定の人々がこれを疑うことが出来ず、さらに拡散させてしまいました。このような偽情報が生んだ疑心暗鬼は、一部の人のたいする差別や、リンチ事件にまで発展することもありました。

今回は、火事場泥棒が乗っているという銀色のワゴン車のナンバープレートがネット上で公開されましたが、実際には携帯基地局の修理をするために来ていた電気通信会社の車でした。これを拡散させた二十代の人物はデマとの指摘を受けて謝罪し、投稿を削除しましたが、既に千件以上も転載されネット上から消すことは出来なくなっています。他にも、中国人窃盗団がマイクロバスでや

つてきて破壊行為をしているというものや、黒色の車両が女子供を誘拐しようと走り回っているという、証拠も被害報告もない噂が多数ネット上に散らばっています。最初は単なるうわさ話として掲示されたものが、伝言ゲームの要領で伝わっていき、最後はいかにもありそうな話へと変化していったようです。面白半分には話を作った人もいれば、不安な気持ちからいくつかの情報を結び付け、より具体的な話へと悪意無く作り直した人もいるかもしれません。いずれにしても、このような偽情報を安易に信じてしまうことは大変に危険です。非常事態の時こそ、不確定な情報に流されないように気を付けてはなりません。

一方で、実際に空巢や窃盗に関する相談や報告もあり、屋根の修理業者をよそおい無料でいいと言いながら法外な料金を請求したというものや、国や自民党からの要請でブルーシートを販売しているという事実ではない内容をかたるといった詐欺事件も実際に起こっています。この様なときは、警察相談電話「#9110」や消費者ホットライン「188」に連絡して下さい。もし少しでも怪しいと思ったら、迷わず110番通報することをお勧めします。

最後に、私事になりますが徳法寺の被害は軽微でした。家族もみな無事です。近所の廃墟ビルの壁が削げ落ちたものの寺には被害はありませんでした。年初めから散々な状況でございますが、今年も一年、生き抜いてまいりましょう。

奥能登国際芸術祭2023

杉谷 紬

石川県珠洲市の奥能登国際芸術祭2023を訪れ、市内各所で展開された現代アート作品全四八作品を鑑賞しました。この芸術祭は二〇一七年より始まり今年で三回目となります。二回目はコロナ禍による一年の延期を経て、そして今回は地震からの復興の中で三週間の延期の後の開催となりました。

二〇二三年五月に発生した能登地方を震源とする地震にて、珠洲市では震度六強の揺れを観測し、住宅の倒壊など大きく報じられました。その中で、芸術祭よりも復興を優先すべきだという意見も報道されていたのを記憶しています。芸術祭の予算は主に珠洲市から出ていることを思えば、私も開催にあたっての地元感情はやや気がかりでした。

実際に訪れると、今回も出会う人皆に非常に暖かく迎え入れられたという印象でした。作品の監視スタッフ・ボランティアさんとはもとより、芸術祭関係でない方からも行く先々で「芸術祭ですか？ 楽しんでいってくださいね。」といった声をかけられます。芸術祭がこれまで三回の開催を続けていく中で築き上げてきた地元との確かな関係性を感じました。

私もこれで三回目の訪問となり、自然と前回、前々回との移り変わりに目がいきました。作品が設置場所の建物ごと無くなっていたり、場所は同じでも作品は変わっていたりしてふと寂しさを覚える一方、一回目からある作品は懐かしく目に映ります。その

中で特に印象深かったのは、さわひらき『幻想考 The Butterfly Dreams』です。

さわひらき氏は一回目から続けて参加し、旧日置公民館をまるごと用いて過去の回の作品を引継ぎながら発展させていく、非常に面白い展開を見せています。複数の部屋にまたがる複雑な作品なので説明が難しいのですが、一回目は舟のオブジェと水の運搬をめぐる映像作品が主でした。二回目では前回のオブジェ等を残しつつ会場の各部屋や廊下にさらに様々なオブジェや絵画を配し、そのオブジェやスクリーンに映像を流す作品となっていました。そして今回は、二回目での空間に一回目の映像を組み込んだ部屋に階段をかけ「屋根裏」が誕生していました。

「屋根裏」はその部屋の天井裏にぽっかりと空いた狭い空間で、全ての角を丸く塗った上で全面真っ白に塗装されています。その空間の奥、床に小さな



さわひらき『幻想考“The Butterfly Dreams”』(2017~)
芸術祭後も常設作品として予約制で鑑賞できる。

穴が開いていて階下にある、恐らく隣の部屋の様子が見えます。しかしその部屋は一階からは入れない、覗き込むだけの閉ざされた場所です。のぼり、身をかためて一人ずつ覗くその穴の先には、薄暗い中にオブジェと映像が確認でき、影だけのラクダが様々な場所をゆっくり歩いてゆくのが見えました。

その他の部屋の映像でも、現実と虚構が混じり合うとりとめのないシーンが断続的に繰り返されます。それに周囲のオブジェ等が呼応する空間内に身を置いてみると、まるでいつのまにか夢に迷い込み、夢と自覚しながらも覚めることができない状態にいるような、不思議な感覚に囚われます。

芸術祭開幕後、新聞では芸術祭が集客による経済効果などで復興を後押ししたとする記事も見られました。しかし復興はまだ終わりませんし、以前からの過疎化などの問題も絡み合います。今回の地震だけが原因かは分かりませんが、訪問時いくつもの家に倒壊の危険を知らせる白い張り紙があるのも目にしました。引き続き復興だけでなく、珠洲市の未来を見据えた息の長い取り組みが求められるでしょう。

そこに芸術祭が地域でどのような役割を担えるのか、回を重ね、年数を経る中で、共同体の強化や雇用の創出など、様々な観点から評価される時期が近づいているかもしれません。奥能登国際芸術祭はコロナ禍と震災の苦難の中で実施されてきました。その過程での様々なことが、珠洲市の人々に大きな財産となったことを願ってやみません。四回目の開催があれば、旧日置公民館が今度は一体どうなっているのか楽しみに、絶対にまた訪れたいと思います。

(注 この原稿は二〇二三年十二月に書かれたものです。)

日本の神々と仏 1

杉谷 淨

今回から、徳法寺で行っています仏教講座の中から、神々と仏教に関係するところを、二回に分けて時代を追って取り上げます。

まず縄文時代の神についてです。この時代はまだ文字がありませんから、文献としての資料は残っていませんが、遺跡から当時の人々の宗教観をうかがわせるものが多数見つかっています。勿論、この頃は国家といえるものはありませんから、地域や部族ごとに様々な宗教観があったものと思われれます。能登の縄文遺跡からは複数の墓が見つかっていますから、既に死者を弔うという意識があったことが分かります。但し、死者を先祖霊として祀っていたのかは明確ではありません。宗教儀式に使っていたと思われるものとしては、各地で女性をかたどった土偶や男性器の形をした石棒が出土しています。これらは子宝に恵まれることや豊作を祈るための神器であると思われる。これらを用いてどのような神に祈っていたのかまでは分かりませんが、近年、土偶の形は縄文人が食していた木の実を表しているのではないかという学説も発表されています。いずれにしても、この時代は子供と食料に恵まれることが最も重要なことであったようですから、それらを叶えてくれる神を祀っていたと考えられます。

弥生時代になると朝鮮半島との交易が始まり、青銅や鉄が伝わります。これにより農耕が盛んになり、よりよい農地や農奴を求めて争いが起こるようになります。すると、神に祈る内容に争いに勝利することが加わりました。争いに勝つために呪詛を行うようになるのもこの頃からであると思われれます。また農業にとって必要な雨乞いも始まります。祈る内容が増えましたから、新しい宗教儀式や作法も必要になりました。これに 대응するために朝鮮半島からもたらされたのが、銅鏡や銅鐸、銅剣などの祭器です。さらに死者を祀るようになったことが、多くの古墳が造られたことから分かります。

二世紀頃、中国で大平道や五斗米道という道教が生まれました。三国志で大平道信徒が起こした黄巾の乱を曹操が鎮圧したことをご存知の方も多いと思います。この道教が最新の宗教として日本に伝わっていたことは、『魏志倭人伝』に卑弥呼が道教を用いていたと書かれていることから分かります。この教えは、正しい行いをすれば天や死者の魂である鬼が天災や病氣から守ってくれるというものです。道教以外にも、雨を降らせてくれるという龍神の信仰も大陸から伝わっていたことが、熊本県にある三、四世紀頃のトンカラリン遺跡から分かっています。

この様に、日本人の神に対する考え方は大陸からの影響を受けてきましたが、飛鳥時代に仏教が伝来することでさらに変化することになります。これまでも朝鮮半島や大陸から神に関する新しい概念を受け入れてきましたから、仏教に対しても新しく仏・菩薩という名の神が加わるといっくらの認識であ

ったようです。併し、今までの神とは異なっているところもありました。例えば、それまでの神は明確な姿がありませんでしたから、神を祀る神殿はありませんでした。しかし、仏教には仏像を安置するための寺が必要でした。さらに、仏教には哲学的な教義も備わっていました。これらの理由から仏教に否定的な人たちもいましたが、七世紀に大流行した天然痘を鎮めるために、朝廷が中心になって、より強力な力を持つと考えられていた仏教を取り入れていきます。

奈良時代、聖武天皇の命により全国に国分寺・国分尼寺が建立されたことで、仏教が日本中に広がることになりました。大仏がある東大寺は、これら国分寺の本寺です。これらの寺も、疫病から日本を守るために建てられたものでした。しかし、理論的な教義を持った仏教は、次第にそれまでの神々よりも上位に立つようになっていきます。(次回に続く)



東大寺大仏 (毘盧遮那仏)

徳法寺からののご案内

心の相談室公開講座

『このまんまの私でいい』

「摂食障害が教えてくれたこと」

講師 NPO法人 あかりプロジェクト代表

山口いづみ氏

日時 三月三十一日(日) 午後二時より

会場 金沢東別院 真宗会館一階

参加無料 駐車場もあります

『摂食障害』という言葉を聞いたことはありませんか？『過食症』や『拒食症』とも言われ、食べ続けたり、食べては吐くことを繰り返したり、骨と皮だけになっても食べることでできなかつたりするなどの症状があります。

講師の山口さんは元当事者で、長年摂食障害で苦しんでいる方々のサポートを行っていらつしやいます。また、近年は、当事者の方々が安心して働ける職場もつくっています。摂食障害を悲観的にとらえることなく、心からの大切なサインとして受け止めることが大切であるとおっしゃっています。

当事者の方はもちろん、身近にこの様な方がいらつしやる方はぜひ御参加下さい。講演の後、講師とお話する時間も設けています。

徳法寺 仏教入門講座

毎月二十一日午後七時半より

講師 徳法寺住職 杉谷淨

三月 足利仏教 一 南北朝時代

四月 足利仏教 二 足利幕府と応仁の乱

五月 足利仏教 三 戦国時代

今年から、足利時代に入ります。鎌倉幕府は朝廷を管理下に置きますが、これに抵抗した後醍醐天皇が討幕を計画します。これ以降、南北朝時代と言われる複数の天皇が同時期に存在する時代がしばらく続くこととなります。

鎌倉の北条氏から権力を奪った足利氏は、都を鎌倉から京都に戻します。しかし、全国の武家を統率することは出来ず、権力が各地に分散していく事になりました。土地の所有が世襲化されたことで、全国に惣などの村組織が生まれ、組織ごとに独自の決まりが定められるようになります。

大名たちがそれぞれの所領を戦によって拡大させる戦国時代になると、身分社会も壊れていきます。商人や職人、さらには傭兵組織まで生まれ、従来の価値観が大きく変化していきました。

この様な意識の変化から、宗教家による宗教ではなく、民衆が主体となる宗教が生まれていくこととなります。

参加費はお賽銭のみです。どなたでもお気軽にご参加ください。

徳法寺春彼岸

武田あずみ 銅版画展

三月十六日(土)から三十一日(日)まで

銅版画家の武田あずみさんの作品を、シリーズ作品を中心に展示します。様々な技法を通して浮かび上がらせた心ざわめく作品世界をご堪能ください。

春彼岸中日法要及び永代経法要

三月二十日(水・祝) 午後二時より

読経の後、当寺住職が法話をします。



武田あずみ 銅版画展
3月16(土)~31(日) 入場無料/10時~17時

春彼岸中日及び永代経法要
3月20日(水・祝) 午後2時より
勸行『仏説観無量壽経』 法話 当寺住職 杉谷 淨

徳法寺 〒921-8031 金沢市野町 2-32-4 TEL. 076-241-5219

表題揮毫 中田 八千代

徳法寺 石川県金沢市野町二丁目三二番四号

TEL 076(241)5219

ホームページ <http://tokuhou-ji.com>